

絵本の読み聞かせ後の問いかけが子どもに与える影響

根岸 舞

絵本は子どもが初めて出会う本であり、読み聞かせはその出会いのきっかけとなるものである。この読み聞かせを行う際に、読み手が聞き手に物語の内容や感想を問う「問いかけ」という行為がある。この「問いかけ」の効果については、読み聞かせの途中にすることにより物語理解をより深めるという研究成果がある一方で、読み聞かせ後にすることにより想像力を阻害するという主張がある。しかし、後者は経験的に述べられたものであり実験的に検証されたものではない。読み聞かせの方法が子どもに対してどのように影響を与えるかが実証されれば、読み聞かせを行う際の指針の一つとなることが期待できる。そこで本研究では、絵本の読み聞かせ後の問いかけが子どもに与える影響について実験的に検討し明らかにすることを目的とする。

本研究では、読み聞かせ後の問いかけが、物語理解度への影響を測る実験 1 と想像力への影響を測る実験 2 の 2 つの実験を行った。被験児は、茨城県内の公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育園の計 4 園に通う年長児 62 名であり、実験 1、実験 2 とともに読み聞かせ後に「問いかけ」をする質問群と、何もしない統制群の 2 グループに分けた。グループ間で言語能力に差が生じないように、あらかじめ LC スケール(言語コミュニケーション発達スケール)の手ごたえ課題を実施し、言語能力が均等になるようにした。実験は全て一対一で行い、記録は全て IC レコーダーによる音声記録と、記録紙への記入による記録を用いた。実験者が絵本「そらいろのたね」を読み聞かせた後、質問群では絵本の感想を問う問いかけをし、統制群では何もしなかった。その後、実験 1 では物語内容に関する 10 問の理解度テストを行い、実験 2 では物語の続きを作るという表現テストを行った。

実験 1 の結果、物語理解度は質問群の方が成績が良いという結果が得られた。その内訳を見ると、事象項目の成績は、問いかけの有無によって有意な差は見られなかったが、心情項目の成績は、質問群の方が良かった。また、実験 2 の結果、想像力を測る表現テストでは、イメージ量、イメージ内容ともに、両群の成績に統計的な有意な差は見られなかった。したがって、想像力への影響については今後も検討が必要である。

以上により、読み聞かせ後に問いかけをすると登場人物の心情に関する物語理解度の向上に効果があることが明らかになった。今後の課題はサンプル数を増やして実験を行い、想像力への影響について更に検討する実験を行うことである。

(指導教員 松村 敦)